評価機構

2018 7 月号

NEWS LETTER



Topics

認定病院の改善事例紹介シリーズ「Improve」のご案内

(病院機能評価事業)

評価事業推進部では、病院機能評価を活用して改善に取り組んだ病院の事例を紹介する "認定病院の改善事例紹介シリーズ「Improvel" を発行しています。

本News Letterに同封したVol.13では、医療法人同和会 千葉病院の事例を紹介しました。病院機能評価を活用し、今のノウハウを可視化して次世代へ伝え、日本の標準と比較しながら、常に精神科医療の最先端を追い求める姿を紹介します。

今後の企画の参考のため、同封の「Improve」アンケート(紫色の用紙)にもご協力を宜しくお願い申し上げます。

- ○Vol.12 慶應義塾大学病院(一般病院2)
 - 一こころをひとつに~「患者目線」の医療に向けて~(平成30年3月発行)
- ○Vol.11 社会医療法人博進会 南部病院(一般病院1)
 - 一まなびあい、たすけあう ~病院内から地域へ~(平成30年1月発行)
- ○Vol.10 特定医療法人 自由会 岡山光南病院(リハビリテーション病院)
 - 一患者さんに「安心」を届けるトータルマネジメントー(平成29年7月発行)
- <バックナンバー>https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/tool/improve/から ご覧いただけます。



平成30年度 医療安全マスター養成プログラム 開催のお知らせ (教育研修事業部)

教育研修事業部では、病院において医療安全の実務を担って おられる方のパフォーマンス向上を支援するための研修「医療 安全マスター養成プログラム」を開講します。

講義とグループワークを織り交ぜ、医療安全管理の基盤となる知識や視点を学び、実践の質の向上につなげます。

【平成30年度開催日程】

第4期 9月23日(日)·24日(月·祝) 第5期 2月16日(土)·17日(日)

申込・詳細は病院機能評価事業ホームページをご覧ください。

施設環境から考える安全対策事例検索サイト (PSP)

PSP会員病院より収集した施設・環境・設備に関連するインシデント・アクシデント事例292件をPSPホームページ上で公開しています。各病院が考えた対策なども掲載していますので、ぜひご覧いただき、自院で安全対策を検討される際にお役立てください。

PSPホームページ

(https://www.psp-jq.jcqhc.or.jp/)





脳性麻痺事例の再発防止に資する論文の掲載

(産科医療補償制度運営部)

再発防止に資する情報提供の一環として専門的な分析を行う「再発防止ワーキンググ ループ において取りまとめた論文が、オープンアクセスジャーナル [Wiley] および医学 誌のJOGR (THE JOURNAL OF Obstetrics and Gynaecology Research) に掲 載されました。本制度ホームページに研究概要を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

論文タイトル: 「Relevant obstetric factors associated with fetal heart rate monitoring for cerebral palsy in pregnant women with hypertensive disorder of pregnancy|(妊娠高血圧症候群の母体より出生して脳性麻痺になった 児の分娩期の周産期因子に関する検討)

本制度ホームページ (http://www.sanka-hp.jcqhc.or.jp/) トップ画面 「資料・報 告書 | 内の 「統計・調査資料 | に研究概要を掲載しております。



患者・市民向け情報ページのご案内

(EBM医療情報部)

EBM普及推進事業 (Minds) では、診療ガイドラインやその関 連情報を紹介するMindsガイドラインライブラリを運営していま す。この度、新たに患者・市民向け情報ページを公開いたしました。 患者・市民の方々に診療ガイドラインやその関連情報を活用して 頂くために、診療ガイドラインについてわかりやすく解説した資料 を掲載しています。また、患者・市民の立場で診療ガイドラインの 作成に参加する際に参考となる資料もご紹介しています。下に示 すURLにて右のような「参加の手引き」や「リーフレット」のPDF データを公開していますので、ぜひご自由にお使いください。

Mindsガイドラインライブラリ 患者・市民向け情報ページ https://minds.jcghc.or.jp/s/public_infomaiton_guide



参加の手引き

リーフレット

報告書・医療安全情報の公表

(医療事故防止事業部)

医療事故情報収集等事業では、2018年1月~3月に報告いただいた医療事故情報とヒヤリ・ハット事例を取りまとめた 第53回報告書を6月28日に公表しました。本報告書では、以下のテーマを取り上げました。

- ○集中治療部門のシステムに関連した事例
- ○錠剤の粉砕に関連した事例
- ○ヨード造影剤使用時のビグアナイド系経口血糖降下剤の休薬に 関連した事例

また、以下の医療安全情報を提供しました。

- ○No.138「画像診断報告書の確認不足(第2報)」(5月)
- ○No.139 「2014年から2016年に提供した医療安全情報 | (6月) 詳細は、ホームページをご覧ください。

http://www.med-safe.jp/





No.138 (1ページ目)

No.139 (1ページ目)

診療の質向上に向けた病院機能評価 と診療ガイドラインの活用

EBM医療情報部 部長 菅原 浩幸

日本医療機能評価機構では、医療の質と安全の向上に向けた幅広い事業を実施しています。これらの事業をうまく活用することで、質の高い医療の提供をより確実にすることが期待されます。本稿では、病院機能評価認定病院が、EBM普及推進事業 (Minds) (以下、「Minds」と呼びます)を活用して、さらなる診療の質向上を目指す取り組みを提案します。

1. 質の高い医療とは

認定病院では、病院の目指す姿やそれを実現するための重要事項を明文化した理念・基本方針が定められていることと思います。その表現は様々ですが、大きな方向性としては「質の高い医療の提供」を謳っているのではないでしょうか。そこで、まず「質の高い医療」とは何かを考えてみます。

医療の質は次のように定義されます。

医療の質とは、個人と集団に対する医療サービスが望ましいアウトカムをもたらしうる可能性 を高める度合いと、現時点の専門的知識に合致している度合いである

(Institute of Medicine: IOM, 1990)

この文章を要約すると、「望ましいアウトカムをもたらす医療」が、質の高い医療であるといえます。世界中で行われている臨床研究によって、医療的な介入がどのようなアウトカムをもたらすのかについてのエビデンスは日々集積されています。しかし、そのようなエビデンスと日常受けている医療には格差があることも知られており、エビデンスープラクティス・ギャップと呼ばれています。このギャップを解消することが、医療の質向上の具体的な目標といえます。

エビデンスープラクティス・ギャップ解消へのアプローチとして、2つの提案があります。一つは EBM、もう一つは質改善活動です。ともに医療の質を向上させるための方法論ですが、重点が少し違います。EBMが、"何を実施すべきか"という臨床的意思決定を示すものであるのに対し、質改善活動は、"どのように実施すべきか"という実践手法といえます。理想的には両者を統合することが望まれます。

当機構の事業では、おもに病院機能評価事業が病院の質改善活動に取り組んでおり、MindsがEBMの普及推進に努めています。認定病院はすでに病院機能評価を通じて、質の高い医療を提供する組織的な仕組みが整備されていますので、その仕組みの上で、エビデンスに基づいた「望ましいアウトカムをもたらす医療」を提供することが期待されます。

2. 診療ガイドラインとは何か

Mindsでは、EBMを実践するためのツールである「診療ガイドライン」の普及や活用促進に取り組んでいます。そこで、まず診療ガイドラインとは何か、について簡単に解説します。

Mindsでは診療ガイドラインを以下のように定義しています。

診療上の重要度の高い医療行為について、エビデンスのシステマティックレビューとその総体 評価、益と害のバランスなどを考量して、患者と医療者の意思決定を支援するために最適と 考えられる推奨を提示する文書

(小島原他編集. Minds診療ガイドライン作成マニュアル 2017. 公益財団法人日本医療機能評価機構 EBM医療情報部. 2017 http://minds4.jcqhc.or.jp/minds/quideline/pdf/manual_all_2017.pdf)

○診療ガイドラインの目的は意思決定のサポート

診療ガイドラインは、一連の診療プロセスの中で複数の選択肢がある場合に、どちらの選択 肢がより望ましいかを「推奨」という形で示した文書です。教科書が、疾患の特徴や治療法など に関する知識を提供するのに対し、診療ガイドラインは、治療法Aと治療法Bのどちらを実施する べきかなどの意思決定をサポートします。

○医師の裁量を制限するものではない

診療ガイドラインは医師の裁量を制限するものではありません。診療ガイドラインが示すのは あくまでも一般論であり、一律に遵守すべきものとはいえません。患者に適用するかどうかの判断 は、患者の個々の状態や医師の熟練による専門性、医療施設の特性、さらには患者の希望や価 値観などを総合的に勘案して、決定されるべきです。

○法的側面

診療ガイドラインの推奨を実施しなかった場合に訴訟に負けるのではないか、という声がよく 聞かれます。結論としては、診療ガイドラインの推奨と異なることを実施したことのみで有責にな ることは考えにくいのですが、それを説明していなかった場合は説明義務違反に問われる可能性 があります。

まず、医師の注意義務の一環として、診療ガイドラインに何が記載されているかを十分に知っておくことが求められます。一方で、それを実施するかどうかは、上述のように様々な要素を加味して判断することになります。もし、診療ガイドラインの推奨とは異なる治療法を実施する場

合は、なぜ違う方法を用いるのか、しっかりと患者に説明し同意を得ることが必須です。詳しくは「Mindsからの提言 診療ガイドライン作成における法的側面への配慮について (http://minds4.jcqhc.or.jp/minds/guideline/pdf/Proposal1.pdf)」をご参照ください。

3. 日常診療における診療ガイドラインの活用

○診療の質向上に向けた診療ガイドラインの活用

診療の質向上の仕組みとして、病院機能評価では「1.5.2診療の質向上に向けた活動に取り組んでいる」という評価項目が設定されています。そのなかに評価の要素として「症例検討会の開催」「診療ガイドラインの活用」「クリニカル・パス (クリティカル・パス) の作成・見直し」「臨床指標に関するデータの収集・分析」が例示されています。

この中で診療ガイドラインは、治療方針を検討する際の重要な情報源として用いられます。また、患者に説明する際の基礎資料としても活用できるでしょう。したがって、必要時にはいつでも診療ガイドラインを参照できることが求められます。当該評価項目がC評価となり得る状況として「各学会から発行されている診療ガイドラインを参照できる環境が整備されていない」場合が明示されています。

○Mindsガイドラインライブラリ

わが国では、年間に80~100件の診療ガイドラインが発行されています。Mindsでは、作成方法の観点から質が高い診療ガイドラインについて、作成団体(学会等)や出版社の許諾を得て、Mindsガイドラインライブラリ(https://minds.jcqhc.or.jp/)に無料で公開しています。現在、約200件の最新版診療ガイドライン本文を閲覧することができます。したがって、インターネットに接続できる院内の端末に、Mindsガイドラインライブラリを「ブックマーク」や「お気に入り」に登録しておくと、簡単に診療ガイドラインにアクセスすることができます。なお、Mindsガイドラインライブラリはスマートフォンやタブレットにも対応していますので、それらの携帯端末でいつでもどこでも閲覧することが可能です。





Mindsガイドラインライブラリ https://minds.jcqhc.or.jp/

○病院機能評価と診療ガイドライン:診療の質向上の両輪

病院機能評価を通じて、質の高い医療を提供するための組織的基盤や仕組みを整備することができます。そのうえで、個々の患者に対しては、診療ガイドラインを活用することによって、現場での臨床判断を円滑化し、アウトカム向上を目指すことができるでしょう。これによって病院の理念に掲げた「質の高い医療の提供」を具体化することができます。認定病院の継続的な活動として、ぜひ診療ガイドラインを尊重した医療の提供に取り組んでください。

○2018年以降に新たに掲載された診療ガイドライン一覧

診療ガイドライン作成団体、出版社等のご協力のもと、2018年1月から現在までに、新たに28件の診療ガイドライン本文がMindsガイドラインライブラリに掲載されています。今後も新たな診療ガイドラインが掲載されていきますので、ぜひご利用ください。

ガイドライン名	Mindsガイドラインライブラリ カテゴリ		
亜急性硬化性全脳炎(subacute sclerosing panencephalitis:SSPE)診療ガイドライン2017	[脳・神経] [感染症]		
頚椎症性脊髄症診療ガイドライン 2015	[脳・神経] [筋・骨・関節]		
細菌性髄膜炎診療ガイドライン 2014	[脳・神経] [小児] [感染症]		
症候性放射線脳壊死診療ガイドライン	[脳・神経]		
小児けいれん重積治療ガイドライン2017	[脳・神経] [小児]		
進行性多巣性白質脳症 (Progressive Multifocal Leukoencephalopathy:PML) 診療ガイドライン2017	[脳・神経] [感染症]		
多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドライン2017	[脳・神経]		
認知症疾患診療ガイドライン2017	[脳・神経] [メンタル・ヘルス]		
プリオン病診療ガイドライン2017	[脳・神経] [感染症]		
血管腫・血管奇形・リンパ管奇形診療ガイドライン2017	[小児] [内分泌・代謝・血液] [皮膚・目・耳・鼻・のど]		
小児がん診療ガイドライン 2016年版	[小児] [がん]		
小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン 2016年版	[小児] [内分泌・代謝・血液] [がん]		
先天性難治性稀少泌尿生殖器疾患群(総排泄腔遺残、総排泄腔外反、MRKH症候群) におけるスムーズな成人期医療移行のための分類・診断・治療ガイドライン	[小児] [腎臓・泌尿器] [女性の健康・妊娠・出産]		
低形成・異形成腎を中心とした先天性腎尿路異常 (CAKUT) の腎機能障害進行抑制 のためのガイドライン	[小児] [腎臓・泌尿器]		
ポンペ病診療ガイドライン 2017	[小児] [内分泌・代謝・血液]		
シェーグレン症候群診療ガイドライン2017年版	[内分泌・代謝・血液] [その他]		
創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン-3:糖尿病性潰瘍・壊疽ガイドライン	[内分泌・代謝・血液] [皮膚・目・耳・鼻・のど]		
わが国の原発性アルドステロン症の診療に関するコンセンサス・ステートメント	[内分泌・代謝・血液]		
骨・関節術後感染予防ガイドライン 2015	[感染症][筋・骨・関節]		
日本版 敗血症診療ガイドライン 2016	[感染症] [救急救命]		
AKI (急性腎障害) 診療ガイドライン2016	[腎臓・泌尿器]		
前立腺癌診療ガイドライン 2016年版	[腎臓・泌尿器] [がん]		
男性下部尿路症状・前立腺肥大症診療ガイドライン	[腎臓・泌尿器]		
尋常性痤瘡治療ガイドライン 2017	[皮膚・目・耳・鼻・のど]		
創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン-2:褥瘡診療ガイドライン	[皮膚・目・耳・鼻・のど]		
創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン-4:膠原病・血管炎にともなう皮膚潰瘍診療ガイドライン	[皮膚・目・耳・鼻・のど] [心臓と血管] [アレルギーと膠原病]		
外陰がん・膣がん治療ガイドライン 2015年版	[がん] [女性の健康・妊娠・出産]		
ANCA関連血管炎診療ガイドライン2017	[筋・骨・関節] [心臓と血管] [アレルギーと膠原病]		

Information

各イベントの申し込み方法、詳細については評価機構のホームページのイベント情報を ご覧ください。開催日の概ね2か月前よりお申し込みの受付を開始します。

https://jcqhc.or.jp/ 日本医療機能評価機構 トホーム トイベント情報

イベント情報 7月~12月

7・8日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程8 10日 第2回病院機能改善支援セミナー (東京開催)			
18・19日 第1回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目) 3・4日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程C 24・25日 第1回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目) 13・14日 第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目) 20日 医療対話推進者養成セミナー 導入編 日程2 23・24日 第4回医療安全マスター養成プログラム	7月	7・8日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程B
18・19日 第1回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目) 3・4日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程C 24・25日 第1回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目) 13・14日 第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目) 20日 医療対話推進者養成セミナー 導入編 日程2 23・24日 第4回医療安全マスター養成プログラム day1・day2 13日 患者安全推進地域フォーラム(奈良開催) 18・19日 第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目) 27・28日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程D 11月 10・11日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程E 13・14日 第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー 13・14日 第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー 12月 10・2日目) 11・2日目) 11・2日目 11・		10日	第2回病院機能改善支援セミナー(東京開催)
8月 24・25日 第1回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目)		18・19日	
(3・4日目) 13・14日 第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目) 9月 20日 医療対話推進者養成セミナー 導入編日程2 23・24日 第4回医療安全マスター養成プログラム day1・day2 13日 患者安全推進地域フォーラム(奈良開催) 18・19日 第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目) 27・28日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編日程D 11月 10・11日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編日程E 13・14日 第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー 12月 (1・2日目)	8月	3・4日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程C
9月 20日 医療対話推進者養成セミナー 導入編 日程2 23・24日 第4回医療安全マスター養成プログラム day1・day2 13日 患者安全推進地域フォーラム(奈良開催) 第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目) 27・28日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程D 11月 10・11日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程E 13・14日 第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)		24・25日	
23・24日 第4回医療安全マスター養成プログラム day1・day2 13日 患者安全推進地域フォーラム(奈良開催) 18・19日 第2回医療クオリティマネジャー養成セミナー (3・4日目) 27・28日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程D 11月 10・11日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程E 13・14日 第3回医療クオリティマネジャー養成セミナー (1・2日目)	9月	13・14日	
day1・day2 13日 患者安全推進地域フォーラム(奈良開催) 18・19日 第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目) 27・28日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程D 11月 10・11日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程E 13・14日 第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)		20日	医療対話推進者養成セミナー 導入編 日程2
10月第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目)27・28日医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程D11月10・11日医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程E13・14日第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)		23・24日	20 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
10月 27・28日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程D 11月 10・11日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程E 13・14日 第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)	10月	13日	患者安全推進地域フォーラム(奈良開催)
11月10・11日医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程E13・14日第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー12月(1・2日目)		18・19日	
13・14日 第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー 12月 (1・2日目)		27・28日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程D
12月 (1・2日目)	11月	10・11日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程E
22・23日 医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程G	12月	13・14日	
		22・23日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 日程G

詳細は順次掲載されるホームページをご覧ください。

患者安全推進ジャーナルのご案内

当機構の認定病院患者安全 推進協議会が発行している機 関誌です。No.52の特集は「患 者急変を未然に防ぐ」です。

バックナンバーの一部は、認 定病院患者安全推進協議会の ホームページで公開しています。



●会員病院 1,000円(税別)

会員病院には毎号3冊を無料でお送りしています。追加購入をご希望の場合は、認定病院患者安全推進協議会のホームページより会員サイトにログインのうえ、お申し込みください。会員価格となります。

●会員外病院 3,000円(税別)

当機構ホームページ>出版・ダウンロードから お申し込みください。

「患者満足度・職員やりがい度調査支援」 引き続き参加受付中です

平成30年4月より開始しております、「患者満足度・職員やりがい度調査支援」プログラムでは、引き続き参加病院の申込みを受け付けております。質改善のアウトカム指標の一つである、患者満足度調査や職員やりがい度を簡単かつタイムリーに把握できます。本年度は今月7月、11月をベンチマーク期間として設定しております。「患者が安心して医療を享受でき、職員が働きやすく、地域に信頼される病院づくり」のために是非ご活用ください。

【参加費用】

120,000円(税別)

(認定病院・病院機能評価受審申込病院:80,000円(税別))

【プログラムの内容】

- 1. 集計が簡単で、経時的変化からタイムリーな対策を検討できる「満足度調査システム」
- 2. 病院間の比較から自院の強み・弱みを把握できる「ベンチマークシステム」
- 3. 多くの病院事例を共有し、問題点へのアプローチ方法を考えるための「患者満足度・職員やりがい度調査活用支援セミナー」
- 4. 事例の蓄積から開発された「問題解決モデル」(予定)

【詳細・お申込についてはこちらから】

https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/support/satisfaction/

【お問い合わせ先】

評価事業推進部 企画課(担当 二宮・工藤)

Tel:03-5217-2326 E-mail:jq-manzokudo@jcqhc.or.jp









この度、評価機構の各事業の詳細について、わかりやすくとりまとめた「事業概要」を発行しました。ホームページで公開しておりますので、ぜひご覧ください。

https://jcqhc.or.jp/about/work

評価機構

NEWS LETTER 2018 年7月1日発行 (奇数月1日発行)

発行:公益財団法人日本医療機能評価機構(略称:評価機構)

発行責任者:河北 博文

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1丁目4番17号 東洋ビルTEL: 03-5217-2320 (代) / (編集: 総務部情報企画課) 03-5217-2335 https://jcqhc.or.jp/ e-mail:info@jcqhc.or.jp

本誌掲載記事の無断転載を禁じます